



平成 18 年 5 月 15 日

各 位

会社名 タカラバイオ株式会社
(コード番号 4974 東証マザーズ)
本社所在地 滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号
代表者 代表取締役社長 加藤 郁之進
問合せ先 常務取締役 木村 睦
TEL (077) 543-7212
URL <http://www.takara-bio.co.jp/>
当社の親会社 宝ホールディングス株式会社
代表者 代表取締役社長 大宮 久
(コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

タカラバイオグループ中期経営計画を策定

タカラバイオ株式会社(社長:加藤郁之進)では、例年のとおり、2006年4月から2009年3月末までのタカラバイオグループの中期経営計画を策定しました。

当社は、長年培われたバイオテクノロジーを活用し、安定収益基盤である「遺伝子工学研究分野」、第2の収益基盤を目指す「医食品バイオ分野」、将来の成長基盤である「遺伝子医療分野」の3つの事業分野において、事業を推進してまいりました。

本中期経営計画では、昨年9月に買収を完了した米国クロンテック社を中心とした「遺伝子工学研究分野」の事業拡大を図り、キノコ事業における他企業との提携などによる「医食品バイオ分野」の収益改善を進め、「遺伝子医療分野」における研究開発をさらに積極的に推進する計画です。

1. 業績目標

連結業績目標 (単位:百万円)

	2006 年度	2007 年度	2008 年度
売上高	19,800	22,100	23,510
営業利益	700	100	150
経常利益	600	50	300
当期利益	750	150	0
研究開発費	3,962	4,500	5,000

セグメント別売上目標 (単位:百万円)

	2006 年度	2007 年度	2008 年度
研究用試薬	11,869	13,600	14,520
理化学機器	2,523	2,520	2,520
受託・その他	2,614	2,770	2,870
遺伝子工学研究 計	17,007	18,890	19,910
遺伝子医療	90	100	110
医食品バイオ	2,702	3,110	3,490
売上高 合計	19,800	22,100	23,510

2. 事業分野別施策

「遺伝子工学研究」、「遺伝子医療」、「医食品バイオ」の3つの事業分野に照準を合わせ、安定的な収益基盤を確立していく一方で、事業構造の改革を進め、成長基盤の構築を目指すため、以下に掲げる事業を展開していきます。定量目標としては、2009年3月期のタカラバイオグループ連結売上高 23,510百万円の達成および研究開発費の増加を吸収して収支均衡を目指します。

遺伝子工学研究分野

大学や企業などのバイオ研究者向けに研究用試薬・理化学機器の販売や研究受託サービスを行う当該分野は、現在、当社の収益基盤であるコアビジネスとして位置づけられています。さらなる強化を図るため、次のような事業展開を積極的に進めます。

- ・ クロンテック社製品を中心とした海外における売上の拡大
- ・ 当社及びクロンテック社との研究開発力の相乗効果と効率化
- ・ クロンテック社製品の宝生物工程(大連)有限公司への製造移管による製品原価のコストダウン
- ・ RNA 干渉酵素 (mRNA Interferase) を活用した新規技術・製品・サービス開発
- ・ リアルタイム PCR に関する試薬、理化学機器の新製品開発・売上拡大

遺伝子医療分野

遺伝子医療・細胞医療の商業化を目指し、臨床開発を推し進めるため、次のような事業展開を積極的に進めます。

【遺伝子治療】

- ・ 国立がんセンターとの白血病を対象とした体外遺伝子治療の臨床開発の推進
- ・ 三重大学医学部との食道がんを対象とした T 細胞受容体(TCR)遺伝子治療の臨床開発の推進
- ・ RNA 干渉酵素 MazF を利用したエイズ遺伝子治療法の開発
- ・ レトロネクチン法の全世界的ライセンスアウト展開

【細胞医療】

- ・ 中国医学科学院がん病院との腎がんを対象としたがん細胞免疫療法の臨床開発の推進
- ・ 日本におけるがん細胞免疫療法の事業拡大

医食品バイオ分野

機能性食品素材の開発を中心とした健康志向食品事業やキノコの製造販売に関する次のような事業展開を積極的に進めます。

- ・ コンブ由来フコイダン、寒天由来アガロオリゴ糖、アシタバ由来カルコン、キノコ由来テルペンなどの機能性成分を応用した健康志向食品の開発・売上拡大
- ・ マツタケゲノムなどを活用した高付加価値キノコの新規栽培法の確立
- ・ 株式会社雪国まいたけとの提携などによるハタケシメジ、ホンシメジ事業の拡大

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

< 参考資料 >

【語句説明】

RNA 干渉酵素(mRNA interferase)

ニュージャージー医科歯科大学 井上正順教授は、大腸菌由来のタンパク質であるMazFやPemKが、mRNAの特定の配列を特異的に認識して切断することを発見し、このようなRNAの特定の配列を特異的に切断する酵素を、mRNAインターフェレースと命名しました。

mRNAインターフェレースを用いれば、生産したい目的のタンパク質のみを大量に生産することが可能です。また今後、特定遺伝子のmRNAを切断できることを利用した、mRNAインターフェレースの遺伝子治療分野への応用も期待できます。

リアルタイムPCR法

従来のPCR法は、サーマルサイクラーという機器で目的DNAを増幅した後、増幅産物を電気泳動で解析するという手順で行われています。リアルタイムPCR法では、サーマルサイクラーと分光蛍光光度計を一体化した機器を用いて、PCRでのDNA増幅産物の生成過程をリアルタイム(実時間)で検出し、解析できます。DNA増幅産物の生成の過程を連続して観察できるため、より正確な定量が可能となります。また電気泳動を行う必要がないため、解析時間の大幅な短縮が可能となります。

T 細胞

抗体産生の調節と標的細胞の障害の役割を担う重要な細胞で、T リンパ球とも呼ばれます。免疫系の司令塔的な役割を担っており、抹消リンパ組織の胸腺依存領域に主に分布します。

T 細胞受容体 (TCR)

T 細胞に発現される糖タンパク質で、T 細胞が抗原を認識する受容体です。

以 上